

迎古夢旅 4621 : ポルト・夜景と晚餐・光と影 P159





夕食は、魚介類の素材が豊富でリーズナブルな、中華系のレストランで。

世界を旅していて、郷土色豊かな料理も食したが、  
味付けが、土地土地で違う。中華系の味付けが、当たり外れがないので、選択した次第。

割り込みになるが、どこの国でも格差はある。華やかなパリの年末もそうだった。**表と裏**。

京都外国語大学での、2回の講演。1回は、海外からの**留学生**対象だった。

講演後の質問「久楽さんは、綺麗なものばかり撮るのは何故ですか」との質問を受けた。

そうした取材現場の画像記録も、数多くしている。世界を旅して、  
人間社会の、都会の華やかさと、夜や裏通りのギャップ、**格差や矛盾**を考えることが多い。

いい夢＝希望の目標を持たないと、前進する力が、削がれる、のではと、話している。

ふと、そのことが脳裏に浮かんだので、ポルト街模様の画像を挿入。

**2018年1月、1ヶ月間（30日間）パリ20区**、歩きと地下鉄他の取材。

**2019年1月、3週間（20日間）地下鉄・船・徒歩、ニューヨーク中心に取材。**

**心は青年だが、海外・長期の一人旅は、最後**になるだろう。

人生も、長期の一人旅も、**四苦八苦**の側面があって、

**思い通りに行かない事が圧倒的**。暴力や事件にも遭遇。ピンチはチャンス。

人生まだまだ。四苦八苦するだろう。考え方は、乗り越えることで、また、強くなれる。

自律に自立、自分で、自分自身を鼓舞するしか、方法はないないと言ひ聞かす。



アズレージョも老朽化、無残に傷ついている所もある。日本の有難さ。しかし、一人一人が努力しないと、子供や子孫の時代が、厳しく大変になる。猫は何を見ているのか。平凡な日常、平穏な日々、死語にならないことを願いたい。ふと、そう感じた。

上りに下り。半端ない高低差。画像記録ポイントを探すのは、大変だが、自分が選んだ道。

戦後4歳。何よりも、嫌いでなかったから、継続できたと思う。

しかし、常に創意工夫。楽することを考えず、楽しくやりたい。その一念。

人間関係、いろいろあって、単独の活動を選択。何事も一長一短。今日に至っている。

その時は、気分的にも、また、ラフな服装。腰を下ろし、見上げた次第。



